



実行までの運営プログラムを作成！

11月28日（日）午後1時から、鹿角市役所で第4回ワークショップが開かれました。今回が今年最後のワークショップになりますが、前回と同様4つのグループで熱心な検討が行われました。今回は、これまで検討してきた施設機能をどのようにすればうまく運営できるのか、その実行主体とプログラム、そして市民の役割を検討しました。

今号では、その様子をお知らせします。

運営の主体と市民の役割は・・・

検討結果をより実現性の高いものにするために、運営の実行主体を考え、具体化までのアクションプログラムを描きました。プログラムでは、「誰が」（行動の主体）、いつ、どのような「アクション」（行動を）を起こすことが必要かを考え、そのときに、どのような人の、何が必要なのかを検討しました。必要なものとは、資金や知恵、労力、情報、機材等です。

Aグループは、図書館を主体に適切な司書の配置や職員の数試算、その養成や運営を円滑にするボランティアの役割を検討し、施設全体を統括するスーパープロデューサーの必要性を提案しました。

Bグループはホールの運営に関わる、事業主体を検討、年間を通じて効率よくホールを活用する仕組みと市民がそれを快適に利用できる方策を探りました。

Cグループは子育て支援に関して、既存の施設との連携を検討、スタッフ、父母、ボランティア、行政の協力で子供を総合的に支援する新たな仕組みを提案しました。また、総合的に案内できるコンシェルジュと施設全体をプロモーションできる人材の確保を強調しました。

Dグループは、各機能を繋ぐギャラリーや喫茶コーナーに関わるスタッフやテナントについて、早い時期からの行動について提案しました。

今年度のワークショップは終了しました。提案の内容は年内に報告書としてまとめられ、これから選定される設計者に伝えられます。

「みんなで文化交流の杜をつくる会」は来年度以降も開催を予定しています。来年度も多くの方の参加をお待ちしています。



アクションプログラムを描く



成果の発表



ワークショップ参加者